

活動案：1年国語① 単元名「えをみて話そう」

関連する教科単元：生活「がっこうのこと」他

1. 課題と目標

想定される課題

教科書にでてくる様々な生き物について犬やねこは知っていても、しかやおおかみなどの名前は知らないことが予想される。また、単語レベルや二語文で答えることはできても、正しく助詞を使って話すことは難しいことが予想される。そのため、この学習では「～がいます。」「～にいます。」のように正しい表現で話すことを指導したい。

【本時の目標】

- ・絵を見て何があるかを、主語と述語の文を使って話すことができる。
- ・位置を表す言葉「上・下・左・右・前・後ろ」について知る。

2. 指導のポイント・留意点

- ・子どもどうしで、問いの文「何がいますか」「どこにいますか」の基本文型を使ってやりとりできると良い。

語彙：（上・下・左・右・前・後ろ）

表現：「なにがいますか。」⇒「がいます。」「どこにいますか」⇒「にいます。」

3. 使用可能な教材・ワークシート

- ・「くもんことば絵じてん」を使用しても良いが、上下左右を使っての活動を考えると、教科書のほうが使いやすい。
- ・「何がありますか」の文型を使って、「絵じてん」p72,73「こうえん」で同じような内容が可能。

・新しい単語や言葉と出会うときは、教科書に直接書き込みながら学習を進めています。

例：くじらの絵があったらそこに「くじら」と書き込む。

・「どこにいますか」は少し難しいです。日本語に慣れていない児童には、「何がいますか」を中心に学習を進めるといいと思います。

4. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
2分	<p>1. 教科書 p26、p27 (光村図書)を見て、何がいるか出し合う (ざっくばらんに)</p> <p>T: 何がいますか。</p> <p>S: ぶた、くま、うし・・・</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に自由に動物を出させる。 ▼動物カード等を使って、動物の名前を確認する。 ・教科書拡大を準備し、動物の横に名前を記入する。 	教科書 (光村図書) 動物カード
5分	<p>2. 基本文型を使って、基本のやりとりを見せる。</p> <p>教師が児童一人ずつ「なにがいますか。」と聞く。</p>	<p>△教師と児童代表で文型を使って、やりとりを見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文型カードを準備 (文型を使って発表する。) 	文型カード (基本文型を書いたカード)
5分	<p>3. 基本文型「どこにいますか」⇒「<input type="text"/>にいます。」</p> <p>「さるはどこにいますか」⇒「木の上にあります。」等</p> <p>基本のやりとりを見せる。</p> <p>教師が児童一人ずつ「さるはどこにいますか。」を聞く。</p>	<p>△教師と児童代表で文型を使って、やりとりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文型カードを準備 (文型を使って発表する。) 	文型カード (基本文型を書いたカード)
8分	<p>4. 教科書の絵を見ながら、ペアで自由に質問をしあう。</p> <p>「なにがいますか」⇒「さるがいます」</p> <p>「どこにいますか」⇒「木の上にあります」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本文型を押さえ、児童どうしでやりとりができるようにする。 	

活動案：1年国語② 単元名「くちばし」

1. 課題と目標

想定される課題

「くちばし」という題名自体が難しく理解しにくいことが予想されるので、挿絵と照らし合わせながら授業を進めたい。また、子どもたちにとって初めての説明文なので、問いの文と答えの文に注目しながら学習を進められると良い。そして、「問い」の次には「答え」があることを感覚的にとらえられるようにする。

「問い」と「答え」の文章の形を知り、自分でクイズをつくり、友達とクイズの出し合いができるようになると良い。

【本時の目標】

- ・「問い」と「答え」の形式について知る。
- ・問題作りをし、友だちに「動物クイズ」を出したり、答えたりすることができる。

2. 指導のポイント・留意点

- ・「動物クイズ」では、特徴のある動物を準備しておく。
- ・「これは なんの ～ でしょう。」⇒「これは ○○の ～ です。」の基本文型を使って、子どもどうしがやりとりできると良い。
- ・先行学習では、基本文型に慣れることを意識し、クイズづくりは学級でできるようにする。
- ・指導したい語彙・文型

語彙 くちばし

表現 「これは なんの ～ でしょう。」⇒「これは ○○の ～ です。」

3. 使用可能な教材・ワークシート

- ・絵本：「くちばし どれが一番りっぱ？」（福音館書店）⇒読み聞かせに良い。

・教科書では、「ほそくてながいくちばし」のような複合語が出てきます。「ほそい」、「ながい」のように単語で形状を説明することから始めました。その後、「ほそい」プラス「ながい」は「ほそくてながい（ほそながい）」のような複合語の作り方を全員で確認しました。

4. 展開 (指導上の留意点: △日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
3分	1. 「くちばし」の確認をする。 「これは何でしょう？」	・国語教科書 p44 の挿絵 (写真) を使って「くちばし」という言葉を確認する。	教科書
2分	2. 教師からクイズを出す。 「黒いくちばしです。これは何のくちばしでしょう。」 「これは、カラスのくちばしです。」	・教師からクイズを出す。 ・丁寧な言葉で答えることができるようにする。	カラスのくちばしの拡大写真。カラスの全体写真。
5分	3. 表現「これは なんの ～ でしょう。」 ⇒「これは ○○の ～ です。」 基本のやりとりを見せる。 T:「太いあしです。これは何のあしでしょう？」 C:「ぞうの足です。」	△教師と代表児童で文型を使って、やりとりを見せる。 ・文型カードを準備 (文型を使って発表する。)	文型カード (基本文型を書いたカード)
5分	4. どうぶつ一部分写真を見せる。 基本文型「これは なんの ～ でしょう。」⇒ 「これは ○○の ～ です。」	・うさぎの耳、きりんの首、ぞうの鼻 等、特徴的な動物の拡大写真を準備し、基本文型を使って「問」と「答」の練習を繰り返し行う。	どうぶつの拡大写真。
8分	4. ペア学習をする。 ペア学習のやりとりを確認する。	・基本文型を押さえ、児童どうしでやりとりができるようにする。 △自分で動物クイズをつくり、友だちに出題をする。	

活動案：1年国語③ 「おもちゃとおもちゃ」

1. 課題と目標

想定される課題

生活の中で拗音を使った言葉には慣れているが、表記させると「きゅうきゅうしゃ」を「きうきうしゃ」と勘違いしている児童もいたりします。正しい表記と正しい発音にたくさん触れる活動を通して拗音に慣れることができるようにしたいです。

【本時の目標】

- ・ 声に出すことで拗音の発音の仕方に慣れる。
- ・ 拗音は音読をすると一音であることを理解する。
- ・ 拗音の書き方を知る。

2. 指導のポイント・留意点

☆ 授業後の復習として実施してもよい。

- ・ 拗音のつく言葉をすぐに思い出すことは難しいので、事前にイラスト等を集めておくと学習がスムーズに進む。文字を読むことができる児童は文字だけを見せて確認する。

語彙

- ・ おもちゃ、おきゃく、ぎょうれつ、じてんしゃ、あくしゅ、としょかん（拗音を含む言葉）

3. 指導可能な教材・ワークシート

ちびむすドリル拗音 <https://happylilac.net/sk1805311423.html>

拗音、促音などは学年が上がっても十分に読んだり、書いたりすることができないことがあります。今回の学習で読むことに慣れるようにしたいです。実際にノート等を書くとなるとレベルが格段に上がるので、余裕があれば書く作業を入れると良いと思います。

4. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1. 「おもちゃ」と「おもちゃ」の違いを見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・表記の違いを確認する。 △表記上の違いが分かったうえで、読み方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の違いについても確認をする。 	国語教科書
7分	2. 教科書「おもちゃとおもちゃ」の中から小さい「や」「ゆ」「よ」のつく言葉を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の中から拗音のつく言葉を探す。 ・全員で確認をする。 ・読みの練習をする。 	教科書の拡大掲示
8分	3. 自分が知っている拗音のつく言葉をあつめる。	△拗音のつく言葉をノートに書いて集める。 ▼教室があつめた言葉を読んだり、ノートに写したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・拗音を書く練習をする。 ・集めた言葉は教室内に掲示をしておき、読みの練習をしたり、付け加えたりしながら、繰り返し練習ができるようにする。 	

活動案：1年国語④ 「なつやすみのことをはなそう」

関連する教科単元：国語「おもいだしてはなそう」

1. 課題と目標

想定される課題

経験したことは印象に強く残り、話しやすい。しかし、強く心に残ったことから話し出すため、順序性がなく、正しく相手に伝わりにくいことが多い。ここでは、順序を表す言葉とその正しい使い方を知らせて、順序を意識して話せるようにしたい。そして、在籍学級での発表会等でも相手にわかりやすく話せたという達成感を味わわせたい。

【本時の目標】

- ・夏休み（きのう）のことを3文程度で話すことができる。

2. 指導のポイント・留意点

- ・発表の仕方は表現を提示し、3文程度で話をするようにする。
- ・文章の切り方が分からない児童が多いので、単文で話しをすることができるようにする。
- ・質問はこの先の学習でも繰り返し使うことができる。いくつかの質問の仕方を理解できるようにする。
- ・夏休みに限らず、授業の初めに一言スピーチなど取り入れ、日常的に話す活動を取り入れると良い。

語彙 どこ、だれ、なんにん、なに

表現 「なつやすみ（きのう）に〇〇しました。」

「だれといきましたか？」（質問の言葉）

学級でも日常的に発表活動を入れることで、友だちの話し方や質問の仕方を身に着けることができます。国際教室の来室したときも、授業の初めに「昨日は何をしましたか？」と質問タイムを取ると良いと思います。発表の仕方も児童の見えるところに掲示しておきます。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	<p>1. モデルとなる教師の発表を聞く。</p> <p>・教師は3文程度で夏休み(昨日のできごとを話す)</p> <p>夏休みに、友だちと海に行きました。</p> <p>海でバーベキューをしました。</p> <p>とても美味しかったです。</p> <p>・教師は発表後、児童に質問をする。</p> <p>先生はどこへ行きましたか？</p> <p>何をしましたか？ 等</p>	<p>・児童が視覚的にとらえることができるよう、話す内容を画用紙等を書いておき、児童に見せながら話をする。</p> <p>・児童が教師の発表を聞き取ることができているか確認をするために、質問をする。</p> <p>△教師の発表を再話させても良い。</p> <p>▼児童がよりイメージできるよう、イラスト、写真等を見せる。</p>	
5分	<p>2. 質問の言葉を知り、質問の練習をする。</p> <p>・教師が再度発表をし、児童が質問をする。</p>	<p>・どこ、だれ、なにカードを使って児童に質問を促す。</p> <p>△質問カードを使って質問をする。</p> <p>・児童の質問をカードに記録する。</p> <p>▼同じ質問を繰り返し練習する。</p>	
10分	<p>3. 代表児童が昨日の出来事について発表し、質問をする。</p> <p>C:きのう、ともだちと こうえんであそびました。</p> <p>おにごっこを しました。</p>	<p>△教師の発表をモデルに、昨日の出来事を短い文章で発表する。</p> <p>どこ、だれ、なにを使って児童が質問をする。</p> <p>・二人組で発表、質問をしても良い。</p> <p>▼発表、質問が難しい児童は、教師と一緒に発表の練習をする。</p>	

活動案：1年国語⑤ 「じどう車くらべ」

1. 課題と目標

想定される課題

様々な自動車を目にすることはあっても、自動車の名前を意外に知らないことがある。自動車カードやおもちゃ等を使って自動車の名前を確認しておくが良い。「じどう車くらべ」を学習する中で、「しごと」と「つくり」の内容を教科書から読み取ることは難しい。繰り返しの音読を通して、「しごと」、「つくり」の大体がわかるようにしたい。

【本時の目標】

- ・じどう車の「仕事（はたらき）」と「つくり」についてのイメージを持つ。

2. 指導のポイント・留意点

・例えば「乗用車」と救急車のように「働く車」について比較することで、違いをイメージさせる。つまり、教科書とは逆のアプローチで「つくり」から入って「しごと」に結びつける授業の流れになっている。

- ・教科書に出てこない車と比較させると良い（救急車・ごみ収集車）

「じどう車くらべ」は児童にとってとても楽しい単元です。私は単元の最後に児童の知っている車で自動車図鑑を作っています。

それから、「クレーン車」の場面では、「うで」、「あし」などの比喻表現が出てきます。自分の腕、クレーン車の「うで」と比べながらどういう意味かを考えることができたらいと思います。

100円ショップ等で車のおもちゃを簡単に購入することができるので、導入で見せてさわることで、その車をイメージさせています。つくりについては、教科書の挿絵だけではよく分からないこともあるので、写真やイラストを付け足して視覚的に支援しています。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
7分	<p>1. じょうよう車と救急車を比べて、違いを発表する。</p> <p>T:「この車は何ですか？」</p> <p>C: 救急車です。</p> <p>T: じょうよう車にはないけど、救急車にあるものは何ですか。</p> <p>C: ベッドです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・じょうよう車と比較する車の名前を、救急車のミニカーまたは写真を見せて確認する。 ・正式な名称を押さえておく。 ・救急車の内部がよくわかる写真を提示する。 ・できるだけペアで聴き合うようにする。 <p>△「救急車には〇〇があります。」という表現で話させる。</p> <p>▼写真を指差すことで、違いを伝えることができる。</p>	<p>救急車の模型</p> <p>救急車の写真</p>
13分	<p>2. 乗用車と救急車のつくりが違う理由を考える。</p> <p>T: 乗用車と救急車はどこがちがいますか</p> <p>C: サイレンがついている</p> <p> ベッドがある。</p> <p>T: どうして〇〇がありますか</p>	<p>▼一人で考えることができない児童はペアで理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童のやりとりを通して、救急車の「仕事」と「つくり」についてイメージを持つことを大切に、語彙としては在籍で確認する。 	

活動案：1年国語⑥ 「かたかなをみつけよう」

1. 課題と目標

想定される課題

日本語以外の環境で生活していることを考えると、かたかな語を自然習得することは難しく、国語の授業で期待されるようなかたかなの語彙は少ないことが予想される。このため、かたかなで表記すべき語彙は学校で明示的に指導する必要があると考える。

また、ひらがなと形が似ているかたかなもあり、認識することや平仮名との使い分けが難しいと思われる。

【本時の目標】

- ・かたかなに気づき関心をもつことができる。

2. 指導のポイント・留意点

ここでは、校内でかたかなによる表記が多い場所を活動場所として選び、かたかなさがしの体験活動を入れることで、かたかなによる表記があることやどのような物や場所がかたかなで表記されているかに気づかせたい。そのため、かたかな探しの場所としては、かたかな表記の多いコンピュータ室や理科室等で活動することが望ましい。

3. 使用可能な教材・ワークシート

公文「カタカナカード」

この授業ではかたかなという表記方法があるということに気づくことをねらいとして、定着は宿題等でおこなうといいと思います。その際、長音の表記についてはひらがなと異なるので、授業でしっかり教えるように配慮しています。

かたかなを読んだり書いたりする頻度は平仮名に比べると低いので、普段の生活の中でもかたかながでてきたら「これは〇〇だからかたかなで書くね。」と言いながら、意識付けするようにしています。

4. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
2分	<p>1. かたかなを知る。</p> <p>・かたかな一覧表を見せて、かたかなについて知らせる。</p> <p>T: これをかたかなと言います。</p> <p>C: 見たことある!</p>	<p>・かたかながどのような文字なのか知らせる。</p>	かたかな一覧表
10分	<p>2. かたかなさがしをする。</p> <p>コンピュータ室に行きかたかなで書いてあるものをさがす。</p> <p>T: かたかなをさがしてください。</p> <p>さがしたらかたかなで書いてあるものを持ってくる。</p>	<p>・かたかな表記の多い教室に連れていくと良い。</p> <p>ここではコンピュータ室をあげているが、かたかなで表記したものが多しならこの部屋でも良い。</p> <p>・持ってこれないものは、タブレットで写真を撮らせる。</p>	タブレット
8分	<p>3. かたかなで書いてあるものを紹介する。</p> <p>T: 見つけたものを発表してください。</p> <p>T: これらの物はかたかなで書きます。</p>	<p>・タブレットで撮った写真はプロジェクターを使って見せることで、共有を図る。</p> <p>・かたかなで書いてあるものを見せながら「これはかたかなで書くね。」と教えることで、かたかなを認識させる。</p> <p>適切に使えるようにしていく。</p>	

活動案：1年国語⑦「たぬきの糸車」①

1. 課題と目標

想定される課題

日本人家庭で育っていたり、日本の保育園・幼稚園に通っていたりすれば、日本の昔話に触れたことはあると思われる。しかし、外国人家庭で育った外国人児童にとっては、日本の昔話になじみがないことが多い。先行学習でたぬきの糸車の物語の情景を思い浮かべることができるように学習を進めたい。

【本時の目標】

- ・昔話に出てくる語彙を理解し、昔話の情景をイメージすることができる。
- ・登場人物（おかみさん、たぬき）がわかる。

2. 指導のポイント・留意点

- ・児童が作品背景をより理解できるよう、視覚的（写真、イラスト）支援を準備する。
- ・先行で教科書を扱うが、繰り返し同じ教材を扱うことで、児童は作品の内容をより理解することができる。

語彙 おかみさん、糸車、しょうじ

3. 使用可能な教材・ワークシート

てのひら文庫（文溪堂）1年：発達段階や国語教材・他教科との関連を考えた作品選定されており、学年ごとに12冊。昔話（ももたろうなど）もある。10分程度で読むことができるので、読み聞かせにも児童が自分で読みにも読みやすい。

たぬきの糸車は子どもたちにとって楽しい物語です。昔話の情景やおもしろさを味わうことができたらいいと思います。教科書の挿絵を利用して、物語の順番を考えさせると、児童の理解度も知ることができます。私は、授業の中でたぬきの糸車を学習しながら、その他いくつかの昔話も紹介しています。

4. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
10分	<p>1. 教科書P.76の挿絵を見ながらやりとりをする。</p> <p>T:気づいたことを発表しましょう。</p> <p>C:ぼくの家とちがうよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が作品背景を理解できるよう、絵本があるとさらに良い。 ・昔の家屋の写真なども活用する。 ・今とちがうところに着目させる。 	<p>教科書の挿絵</p> <p>昔の家屋の写真(土間・障子)</p>
10分	<p>2. 教科書P.79の挿絵を見ながらやりとりをする。</p> <p>T:気づいたことを発表しましょう。</p> <p>C:これ、おばさん?おばあさん?</p> <p>C:これは犬?</p> <p>T:この女の方は「おかみさん」です。</p> <p>この動物は「たぬき」です。</p> <p>C:服がちがう。</p> <p>C:おじいちゃんの家にあった!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の挿絵にでてくるおかみさんとたぬきに着目させる。 ・「おかみさん」と「たぬき」の話だということをおさえる。 ・挿絵の中にでてくる道具の糸車は、祖父母の家で見た経験があるかもしれない。 ・祖父母の家で見た、もしくは古い写真で見たという経験から、昔の話であることにつなげたい。 	

活動案：1年国語⑧ 「たぬきの糸車」②

1. 課題と目標

想定される課題

日本の昔話については本で読むことが少ないと予想されるが、挿絵を見て自分が感じたことは単語レベルでも話すことができると思われる。そこで、挿絵を手掛かりに、あらすじを推測することにより、物語の大筋をつかむことを目標としたい。

【本時の目標】

- ・挿絵から物語のあらすじを推測することができる。
- ・物語のあらすじを理解する上で重要な言葉を知る。

2. 指導のポイント・留意点

- ・挿絵は教科書の挿絵を使うが、順番は物語順にしないでその絵を見て感じたことや質問したいことを自由に聴き合わせる。その中で登場人物である「たぬき」「おかみさん」や「糸車」という重要な言葉に着目させていく。
- ・挿絵からの推測なので、児童の発言を訂正したり修正したりしないで「どうしてそう思ったの」と問いかける程度にする。
- ・物語のあらすじを理解する上で重要な言葉「おかみさん」「たぬき」「糸車」については、写真やイラストを見せて視覚的に理解させる。

語彙 たぬき・おかみさん・糸車

表現 「～だと思えます。」「～からです。」

この学習が近づいてきたら教室に昔話の絵本を、何冊か用意しておくと思います。読書環境や読書レベルが日本人とは異なると思うので、その子に合ったレベルの本を手にするような環境を設定してあげることも需要だと思います。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
3分	1. 物語の挿絵を見て、登場人物の確認をする。 T: この人は誰ですか C: おんなの人。 T: だれだっけ?覚えていますか。 C: おかみさん?	・質問されたら「たぬき」と正しい言葉を教える。同じように「おかみさん」「糸車」についても、児童に質問されたら答える。	2 場面の挿絵(大)
5分	2. 全部の挿絵を見て、お話のあらすじになるようにペアで並び替える。 T: お話の順番を考えてならべましょう。	・教科書の全部の挿絵を見せる。 ・児童が並べやすいように、挿絵を小さくしたカードを配布して机の上に並べてさせる。 ・P76,77 は情景描写なので使わない。	教科書の挿絵(小)
8分	3. 並び変えたものを発表する。 T: どうしてその順番にしましたか。 C: さよならしてる。 T: さようならしてるからですね。	・挿絵からの推測にもとづくあらすじの再生なので、間違っても直さない。 △根拠が言える児童には言わせる。そのとき「～からです。」という表現を教える。	
4分	4. 教科書の挿絵を見て正しく並び替える。	・あらすじ順を確認させて、絵の中に何回も出てきたのが、「たぬき」「おかみさん」「糸車」であることに着目させる。	

活動案：1年国語⑨ 「ひづけとようび」

関連する教科単元：国語「かずとかんじ」

1. 課題と目標

想定される課題

日付の特殊な読み方は一度では覚えることができない。授業の前に毎時間確認することで、自然に身につくようにしたい。八日（ようか）と二十日（はつか）を混同している児童が多い。また、教科学習でよく耳にする助数詞については曖昧である。学習をする上で必要と思われるのでここで頻度の高い助数詞について取り上げる。

【本時の目標】

- ・日付「一日（ついたち）、二日（ふつか）・・・」を読み、正しい読み方をすることができる。
- ・カレンダーの月日を読むことを通して、生活と結びつけて考えることができる。

2. 指導のポイント・留意点

・日付の読み方は、特殊な1日～10日 20日を取り上げて指導する。また、他教科で使用頻度が高く読み方が数によって変化する「ほん」「ひき」を特に取り上げて学習させる。それにより、文章題の答えの助数詞の書き方も意識させたい。

語彙 一日（ついたち）、二日（ふつか）、三日（みっか）、四日（よっか）、五日（いつか）、
六日（むいか）、七日（なのか）、八日（ようか）、九日（このか）、十日（とうか）、
二十日（はつか）

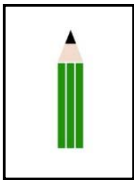
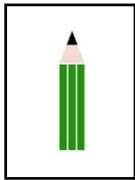

3. 使用可能な教材・ワークシート

「ぷりんときっず」・・・カレンダーの読み方を使用。

国際教室では、日付の読み方は黒板横に常に掲示をし、いつも目に触れるようにしている。日付・曜日に慣れてきたら「おととい」、「きのう」、「きょう」、「あした」、「あさって」も学習し、「きのうは○曜日です」、「あさっては○にちです」のように学習を発展させるようにしています。

算数で使用頻度が高く読み方が数によって変化する「ほん」「ひき」を特に取り上げて学習させることにより。算数の文章題の答えにつける助数詞の書き方も意識させたいです。

4. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	<p>1. 拡大カレンダーを準備し、日付の読み方を確認する。</p> <p>T:「一日」は何と読みますか?</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活を意識させるために、実際のカレンダーを使用する。 <p>△日付を正しく読むことができる児童は、黒板等にも書かせても良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日付ひとつずつを、文字と読み方をセットで確認をする。 	日付カード
7分	<p>2. 友達の誕生日を確認し、日付を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> カレンダーに書かれた友だちの誕生日を確認する。 ワークシートに記入し、読み方の練習をする。 <p>例 〇〇くんの誕生日は五月(ごがつ)一日(ついたち)です。</p>	日付カード
8分	<p>3. 数と漢字で学んだ助数詞について再確認するため、ゲームを行いながら、正しく助数詞を読む。</p> <p>ゲームのやり方</p> <ol style="list-style-type: none"> 表にイラストを描いたカードを用紙して、裏を向けて重ねる。 児童は助数詞を使って数を答える。 <p>T: カードをめくって数を読んでください。</p> <p>C:「いっぽんです。」</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> 表にイラストを描き。裏には何も書いていないカードを用意する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>表</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>裏</p>  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 取り上げる助数詞は、算数でよくつかわれるものを入れる。 発音が変わるカードを意図的に入れる。 <p>例 1ぽん、3びき 等々</p>	